

交通シミュレーション自主研究委員会 第2部会(第3回)議事録案

日 時： 平成14年9月11日(水) 18~20時

会 場： 商工会館7階B・C会議室

出席者： 宇野 伸宏 (京都大学大学院)
赤田 浩志 (株都市交通計画研究所)
江藤 和昭 (株オリエンタルコンサルタンツ東京事業部)
小川 圭一 (立命館大学)
織田 利彦 (松下通信工業(株)社会システム事業部)
片山 恭紀 (走行支援道路システム開発機構)
後藤 幸夫 (三菱電機(株)先端技術総合研究所)
西馬 功泰 (三菱電機(株)先端技術総合研究所)
小松 清太郎 (交通情報サービス(株))
齊藤 純一 (首都高速道路公団)
栃木 秀典 (パシフィックコンサルタンツ(株)東京本社)
花房 比佐友 (株熊谷組)
馬場園 克也(代理 鈴木) (ユーデック(株))
松永 弘明 (株地域・交通計画研究所)
堀口 良太 (株アイ・トランスポート・ラボ)

(敬称略, 名簿順)

配付資料： 3-1 議事次第・第2部会のタスク案について
3-2 交通シミュレーション第2部会名簿
3-3 交通シミュレーション委員会第2部会第2回議事録
3-4 シミュレーションモデル適用事例シート
3-5 街路網交通流シミュレーションモデル AVENUE AVENUE 適用事例シート
動的交通シミュレーションの再現性指標に関する適正性の考察

議事次第

0. 参加者の紹介
1. 前回議事録の確認
2. 第2部会のタスクについて
3. 適用事例の収集について
4. 適用マニュアルの作成について
5. 話題提供「動的交通シミュレーションの再現性指標に関する適正性の考察」(堀口委員)

参加者の紹介, 前回議事録の確認の後, 議事次第の「2. 第2部会のタスク」, 「3. 適用事例の収集について」及び「4. 適用マニュアルの作成について」について, 一括で資料説明・討

議を行った。

第2部会のタスク案に関する部会長の説明

- 1) 第2部会のタスク案としては、「適用事例の収集ならびにその体系的整理」、「適用マニュアルの作成」の2つが考えられる。(タスクの詳細については、資料3-1を参照のこと。)
- 2) 今回の部会での議論を踏まえつつ、上記の2つを第2部会のタスクとして確定させたい。
- 3) 2つのタスクへの対応をより効果的に行うため、第2部会の中にa)適用事例収集WGとb)適用マニュアル作成WGを構成し、部会のメンバーには、このいずれかに所属していただくことを提案したい。
- 4) 第2部会のタスクに対応する検討・議論・作業を、この2つのWGで実施していただき、その成果を第2部会で報告していただき、全員で討議する方式で、今後の部会は運営したい。
- 5) WGへの参加意向については、部会長より部会のメンバーにメールを発信し、それに返信いただく形で把握する。
- 6) 次回部会は11月1日(金)夕刻に東京で開催する方向で調整する。

意見交換

- a) 適用事例の収集に関して、既存手法の対比によりシミュレーション適用のメリット・デメリットを整理するとあるが、必ずしも既存手法と対比させる必要はなく、シミュレーションモデルそのものの特長・問題点を示すことで良いのではというご意見があった。

適用事例の収集に関する部会長の説明

- 1) 先行研究(土木計画学ITS研究小委員会、第3部会収集事例)の蓄積を有効活用するという点から見れば、事例収集のデータシートは資料3-4の書式に合わせるのが望ましい。既存事例を本研究委員会で活用する場合の手続きについては要検討。
- 2) 事例を多数集めるタスクとともに、その事例をどの様に整理していけば、シミュレーション利用者にとって有用な情報になり得るか検討することも必要と思われる。
- 3) 収集・整理した事例は「適用マニュアル」のベストプラクティス・シミュレーション(実例集)を構成するための基礎データとなる。

意見交換

- a) 適用事例の収集には海外のものも含めていくのかとのご質問があった。
海外事例も積極的に収集したい。
同じシミュレーションを国内と海外のプロジェクトに適用した事例も欲しい。
- b) データシートで収集している内容は最小限の情報のみであり、事例を深く掘り下げることも必要ではとのご意見があった。
適用事例がある程度集まった段階で、第2部会を中心としてシミュレーション適用のコスト、データ収集上の苦労等の情報も含めた勉強会を考えたい。

適用マニュアルに関する部会長の説明

- 1) 交通シミュレーション自主研究委員会の成果の一つとして、「シミュレーション適用マニュアル」の執筆が準備されている。
- 2) 第2部会では「再現性の確認」と「出力の整理と解釈」を担当する予定。

意見交換

- a) シミュレーションの再現性を議論するためには、モデルの精度のみならず、入力データの精度についても議論することが必要であるとのことがあった。

堀口委員からの話題提供

「動的交通シミュレーションの再現性指標に関する適正性の考察」という題目で話題提供があった。

(記録： 宇野伸宏)